

平成29年度行政事業レビューシート (厚生労働省)									
事業名	外国人技能実習機構に対する交付金			担当部局庁	職業能力開発局			作成責任者	
事業開始年度	平成27年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	海外協力課			海外協力課長 山田 敏充	
会計区分	一般会計、労働保険特別会計労災勘定、労働保険特別会計雇用勘定								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	雇用保険法第63条第1項第8号 労働者災害補償保険法第29条第1項第2号及び第3号			関係する計画、通知等	外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律(平成28年法律第89号) 『日本再興戦略』改訂2014年(平成26年6月24日閣議決定) 『産業競争力の強化に関する実行計画(2015年版)』(平成27年2月10日閣議決定)				
主要政策・施策	子ども・若者育成支援			主要経費	社会保障、その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	技能実習の基本理念に従い、技能実習に関し、監理団体、実習実施者等による技能実習に係る業務の適正化の推進その他技能実習制度の適正な運営の推進、技能実習による技能実習生の技能等の修得活動の促進並びに技能実習生の保護等を図り、もって人材育成を通じた開発途上地域への技能等の移転による国際協力の推進に寄与することを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	外国人技能実習機構において、 ①技能実習計画の認定 ②実習実施者・監理団体に報告を求め、実地に検査 ③実習実施者の届出の受理 ④監理団体の許可に関する調査 ⑤技能実習生に対する相談・援助等を行う など技能実習の適正化及び技能実習生の保護を図る事業を実施等								
実施方法	直接実施、交付								
予算額・執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	-	1,383	1,750	3,476			
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	193	-			
		翌年度へ繰越し	-	▲ 193	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	0	1,190	1,943	3,476	0		
	執行額	-	-	1,023 (速報値)					
	執行率 (%)	-	0%	53%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	#DIV/0!	0%	58%					
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	[一般会計]外国人技能実習機構交付金	1,393							
	[雇用勘定]外国人技能実習機構交付金	1,327							
	[労災勘定]外国人技能実習機構交付金	737							
	[雇用勘定]庁費、職員旅費、委員等旅費、諸謝金	11							
	[一般会計]庁費、職員旅費、諸謝金	8							
	計	3,476	0						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度
	標準処理期間内に認定した実習計画の割合80%以上	標準処理期間内に認定した実習計画の割合	成果実績	%	-	-	-	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	80
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	外国人技能実習機構からの業務報告								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	技能実習計画の認定件数	活動実績	件	-	-	-	-		
		当初見込み	件	-	-	-	28,457		
単位当たり コスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	単位当たりコスト = X / Y X:「各年度執行額」 Y:「各年の技能実習生の外国人登録者数」	単位当たりコスト	円	-	-	-	15,205		
		計算式	X / Y		-	-	-	3,475,676,000円 / 228,588人	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	働く者の職業生涯を通じた持続的な職業キャリア形成への支援をすること(V-2)							
	施策	若年者等に対して段階に応じた職業キャリア支援を講ずること(V-2-1)							
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	-								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-
目標値		-	-	-	-	-	-	-	
達成度		%	-	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	-	-	-	
	達成度	%	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

項目	評価	評価に関する説明
事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	技能実習制度は、国が制度の管理・運用をしている国際協力のひとつであって、全国で制度が活用され、平成28年末現在約23万人に及ぶ技能実習生が在留している。また、第192回臨時国会で「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」が成立したところであり、同法に基づき外国人技能実習機構が指導監督等の事業を適切に遂行するためには、国費を投入する必要がある。
地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	外国人技能実習機構において行う①技能実習計画の認定、②実習実施者・監理団体に報告を求め、実地に検査、③実習実施者の届出の受理、④監理団体の許可に関する調査、⑤技能実習生に対する相談・援助等、技能実習の適正化及び技能実習生の保護を図る事業については、専門的・全国統一的な執行の必要性が高いことから、地方自治体、民間等に委ねることは困難である。
政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	日本再興戦略改訂2014(26年6月24日閣議決定)において、新たな法律に基づく制度管理運用機関の設置等、管理監督体制の抜本的強化を図ることとされており、技能実習制度の適正化のため、優先度の高い事業となっている。
競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・使途は必要なものに限定されている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		精査中
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	-			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	-			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	本事業は、「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」が施行されることで実施するものである。			
	所管府省名	事業番号		事業名		
	厚生労働省	0390		技能実習生に対する事故・疾病防止対策等事業		
	厚生労働省	0857	技能実習制度推進事業			
点検・改善結果	点検結果	「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」の成立・一部施行が当初見込みより遅れたことから執行率は低くなっているが、外国人技能実習機構の設立と事務所の開設準備は着実に進められた。				
	改善の方向性	-				
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	
平成25年度	-	平成26年度	-	平成27年度	新27-0032	
平成28年度	615					

